



和歌集  
上

2842



2842  
新  
2842

予

特  
へ4  
2842

玉子の文庫



和歌の巻上

まはれりまはれりまはれりまはれりまはれりまはれり  
ちやうあつしるのまはれりまはれりまはれりまはれり  
わさしよまはれりまはれりまはれりまはれりまはれり  
思へりまはれりまはれりまはれりまはれりまはれり  
あさよまはれりまはれりまはれりまはれりまはれり  
おらよまはれりまはれりまはれりまはれりまはれり  
わさよまはれりまはれりまはれりまはれりまはれり  
ちやよまはれりまはれりまはれりまはれりまはれり  
まらよまはれりまはれりまはれりまはれりまはれり  
まらよまはれりまはれりまはれりまはれりまはれり







なつた月とあはれ

なつたの目とあはれ

あつた月とあはれ

あつた目とあはれ

あつた月とあはれ

あつた月とあはれ

あつた月とあはれ

あつた月とあはれ

あつた月とあはれ

あつた目とあはれ

あつた月とあはれ

あつた月とあはれ

秋の月とあはれ

あつた月とあはれ

あつた目とあはれ

あつた月とあはれ

あつた目とあはれ

あつた月とあはれ

あつた目とあはれ

あつた月とあはれ

あつた目とあはれ

あつた月とあはれ

あつた目とあはれ

あつた月とあはれ

あつた目とあはれ

あつた月とあはれ

あつた月とあはれ

あつた月とあはれ

あつた目とあはれ

あつた月とあはれ

秋の月とあはれ

あつた月とあはれ

あつた目とあはれ

あつた月とあはれ

あつた目とあはれ

あつた月とあはれ

あつた目とあはれ

しとあゝ

しとあゝ

月とあゝ

月とあゝ

うとあゝ

うとあゝ

たつとあゝ

たつとあゝ

しとあゝ

冬部

冬とあゝ

冬とあゝ

このとあゝ

このとあゝ

まるとあゝ

まるとあゝ

うとあゝ

うとあゝ

ちとあゝ

ちとあゝ

らとあゝ  
とあゝ  
はとあゝ

冬部

わとあゝ

わとあゝ

まのとあゝ

まのとあゝ

うとあゝ

うとあゝ

そとあゝ

そとあゝ

たつとあゝ

たつとあゝ

ゆとあゝ

ゆとあゝ

あゝ







教懐集一 中尋に

つぎつぎとゆくゆく思ひつゝこころに春はぬよけ

中尋集よこれととりて 三つん志

まぢりつゝとてしひぢるふれなやめと花のぬけ

まきのつれやまのちりといふやでいふれと

いふいふやめいふや中尋の 業あり

はやくいふかまのやめいふ思はるのまのくにまぢれ

これととりて

中尋 三つん志

ちちぬきつれやまのつん部と志まのまのれぬのま

これととりて

秋のやちりつれやまのつん部と志まのまのれぬのま

まのつれやまのちりといふやでいふれと

いふいふやめいふや中尋の 業あり

古今一 中尋の

はやくいふかまのやめいふ思はるのまのくにまぢれ

これととりて

まぢりつゝとてしひぢるふれなやめと花のぬけ

古今の中尋よしとを思ふにまのれぬのま

秋のやちりつれやまのつん部と志まのまのれぬのま



中奇

第...  
これとて

今...  
車

...  
...  
...  
...  
...

ら...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

























Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, written on the right page of an open book. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, filling most of the page's width and height. The script is dense and characteristic of early modern European cursive.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, written on the left page of an open book. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, filling most of the page's width and height. The script is dense and characteristic of early modern European cursive.

Small handwritten text or marginalia located on the left edge of the left page, near the top.

Small handwritten text or marginalia located on the left edge of the left page, near the bottom.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines within a rectangular border. The script is dense and characteristic of early modern European cursive.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines within a rectangular border. The script is dense and characteristic of early modern European cursive.



Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account, written on the right page of an open manuscript. The text is contained within a rectangular border and consists of approximately 15 lines of dense, flowing characters.

138

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account, written on the left page of an open manuscript. The text is contained within a rectangular border and consists of approximately 15 lines of dense, flowing characters.

139

138



Handwritten text in a cursive script, organized into two columns. The text is enclosed in a rectangular border. The script is dense and appears to be a form of shorthand or a specific dialect of a historical language.

Handwritten text in a cursive script, organized into two columns. The text is enclosed in a rectangular border. The script is dense and appears to be a form of shorthand or a specific dialect of a historical language.



Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive script within a rectangular border.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive script within a rectangular border.

Small handwritten text or marginalia located on the left edge of the page.

Small handwritten text or marginalia located on the left edge of the page.



新考の御書

三十一

友則のふりては下りておぼしきものありては  
あてしやうとてしる

少春は多うに書かざるに可なり包かざるに可なり  
たふしに花はたはた包かざるに可なり  
人か書かざるに可なり

おぼしきものありては下りておぼしきものありては  
あてしやうとてしる

おぼしきものありては下りておぼしきものありては  
あてしやうとてしる

おぼしきものありては下りておぼしきものありては  
あてしやうとてしる

おぼしきものありては下りておぼしきものありては

おぼしきものありては下りておぼしきものありては  
あてしやうとてしる

おぼしきものありては下りておぼしきものありては  
あてしやうとてしる

おぼしきものありては下りておぼしきものありては  
あてしやうとてしる

新考の御書

三十一

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is dense and characteristic of early modern European cursive.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is dense and characteristic of early modern European cursive.

Small handwritten text or marginalia located on the left edge of the page.

Small handwritten text or marginalia located on the left edge of the page.





Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive writing.



とまりてしまふらとらむきとわらうにこゆ  
と我古人にもあはれなりやうれい  
とあはれいほふるれよあはれいおほてよじ  
るさなりこぬのぬまよとらるにあらま  
うあはれいよしよとらるにあらま  
はらうらうらうらうらうらうらうら  
まよしよとらるにあらま  
とらうらうらうらうらうらうら  
とあはれいほふるれよあはれいおほてよじ  
るさなりこぬのぬまよとらるにあらま  
うあはれいよしよとらるにあらま  
はらうらうらうらうらうらうらうら  
まよしよとらるにあらま  
とらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうら  
とあはれいほふるれよあはれいおほてよじ  
るさなりこぬのぬまよとらるにあらま  
うあはれいよしよとらるにあらま  
はらうらうらうらうらうらうらうら  
まよしよとらるにあらま  
とらうらうらうらうらうらうらうら  
とあはれいほふるれよあはれいおほてよじ  
るさなりこぬのぬまよとらるにあらま  
うあはれいよしよとらるにあらま  
はらうらうらうらうらうらうらうら  
まよしよとらるにあらま  
とらうらうらうらうらうらうらうら













Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a formal record or account.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a formal record or account.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a date.







一 秀逸草

ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ

日かゝるまはつらちをわかれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ  
ふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれふれあはれ

萬葉

二十卷 泊瀬相念君御宇 天智御製

勢毛興子勢母乳布之思毛興子志持此岳  
機者尤大信持法兄或説中絶書家御持心年記之為

古今

二十卷 文政子角 在元元方

年此らに春公ふまう二とを成しとやんじと  
醍醐天皇 延喜五年四月十八日

紀友則 紀貫之 元河内躬恒 壬午志岑

後撰

二十卷 文政子三百九十六卷 為原敏行御作



以上八代集と云ふ万葉ハ二万也

新勅撰

二十卷

御製

万葉集は古今和歌集に代りて之を撰りて之を御製と云ふ也

後白河院

貞永元年十月二日奉之

後中納言定家

續後撰

二十卷

皇太后宮大夫俊成

年此の御書方らぬ也吉野山居りて之の御書

後醍醐院

建長三年十二月廿二日

前大納言為家

續古今

二十卷

前中納言定家

若くは御書方らぬ也山々を御書に之の御書

同院 文永二年十二月廿六日

前内大臣基家 前大納言為家 前中納言定家

續拾遺

二十卷

子田百六十一卷 為家

新玉成 一巻を撰りて之を御書に之の御書

龜山院 弘安元年十二月廿七日奏

前大納言為成

新後撰

二十卷

子百七十一卷 前大納言為成

少中納言為成の御書に之を御書に之の御書

後宇多院 嘉元元年十二月十九日奏

前大納言為成

玉葉

二十卷

子九百卷

紀貫之













おのれ

うと

この  
はく

おのれ

おのれ

おのれ

あま

あま

みく

あま

みく

あま

澤

あま

田

あま

あま

大和

あま

伴

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

系

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

板

あま

窟









おされ!

河原

<sup>山</sup>おされおのら系おとの

<sup>下</sup>おののー <sup>そ</sup>そらこー

<sup>下</sup>おののー <sup>そ</sup>そらこー

瀬

山るまので

例

神方ふのふち

遊

<sup>山</sup>おされおのら系おとの

<sup>大</sup>おののー

おののー

<sup>大</sup>おののー

<sup>大</sup>おののー

おののー

おののー

おののー

おののー

<sup>山</sup>おののー

池

おのの池 大さの

おののー

おののー

おののー

おののー

沼

おののぬ

おののぬ

おののー

おののー

おののー

おののー

おののー

おののぬ

おののぬ

おののぬ

おののぬ

おののぬ

おののぬ

おののぬ

おののぬ

おののぬ

おののぬ

おののぬ



と志 おん ちまきー おん ちまきー おん ちまきー

けらちー あさうー ちまきー

湊

おん けんいりさき おん けんいりさき おん けんいりさき

おん ゆいれー おん ゆいれー おん ゆいれー

おん ちまきー おん ちまきー おん ちまきー

おん ちまきー おん ちまきー おん ちまきー

おん ちまきー おん ちまきー

磯

おん ちまきのつそ おん ちまきのつそ おん ちまきのつそ

おん ちまきー

おん ちまきー

おん ちまきー

おん ちまきー

おん ちまきー

おん ちまきー

おん ちまきー

おん ちまきー

おん ちまきー

おん ちまきー

ちまきにー おん ちまきにー

岸

すまー おん すまー おん すまー

津

おん ちまきー おん ちまきー おん ちまきー

おん ちまきー おん ちまきー おん ちまきー

流

おん ちまきー

湊

おん ちまきー おん ちまきー おん ちまきー

磯

おん ちまきー おん ちまきー おん ちまきー



みさうれー 玉川のー 志のつー 冬 けさのつー

山 子らきむ 村 けさのー 上 けさのつらてむ

山 子らけやとくふのー 部 けさのー 上 けさのつらてむ

さげのー 山 けさのー 山 けさのつらてむ

山 山まふのー 山 けさのー 山 けさのつらてむ

けさのつらてむ

関

けさのつらてむ 山 けさのつらてむ 山 けさのつらてむ

けさのつらてむ 山 けさのつらてむ 山 けさのつらてむ

市

けさのつらてむ 山 けさのつらてむ

道

けさのつらてむ 山 けさのつらてむ 山 けさのつらてむ

けさのつらてむ 山 けさのつらてむ 山 けさのつらてむ

けさのつらてむ 山 けさのつらてむ

橋

けさのつらてむ 山 けさのつらてむ 山 けさのつらてむ

けさのつらてむ 山 けさのつらてむ 山 けさのつらてむ

たはのゝのり と野 のくちれ あ ぐえのり 冬 ぐえのり

まづれつさー

一 そい の事

山居 山も山里も 野亭 雪は云 水邊 水邊

海路 水のそら 水郷 水のさしやうち

一 その めさうせい あ ね う みる

夜 は だつ あ ぶ く 色 の ば は ち を ぐ ら ぐ く 丹 は び

海客一神云 有主詞

春

く ま こ う の い 海 く ろ う ち の 海 く ろ の や と ち の 海

あ し じ よ 子 し 月 よ け ん 海 た 庭 く ち の ち

じ り だ ん ち の 家 ま ち の 西 さ ち の ち

と れ て な び 書 け き ち の ち を へ ひ け

そ ら へ ま ち あ へ に ち の ち

友

ま じ ち の ち の ち

秋

ま の ち の ち の ち の ち の ち の ち

お の ち の ち の ち の ち の ち の ち

く れ ち の ち の ち の ち の ち の ち

ま の ち の ち の ち

冬

わらわぬまう　　さうてぢる　　月乃ぢるれ

まうしん風　　けしん風　　やましんれ

也

まぬのみひの　　けしん風　　あやうしんれ

神くあこれ　　あやうしんれ　　これのあやう

ひもあこれ　　あやうしんれ　　わらわぬま

これのまうて　　まぬのみひの

新

まのまうしん　　月乃ぢるれ　　かゝるあやう

まのまうしん　　あやうしんれ　　まぬのみひの

こうまれのひのひらきまうしん　　わらわぬま

あやうしん　　あやうしん　　あやうしん

う下風あこのやうな風あやうしん　　あやうしん

あやうしん　　あやうしん　　あやうしん

あやうしん　　あやうしん　　あやうしん

あやうしん　　あやうしん　　あやうしん

あやうしん　　あやうしん　　あやうしん

あやうしん　　あやうしん　　あやうしん

あやうしん　　あやうしん　　あやうしん

あやうしん　　あやうしん　　あやうしん

あやうしん　　あやうしん　　あやうしん

あやうしん　　あやうしん　　あやうしん







